

Bondee ? 何それ。

どっかの国債？

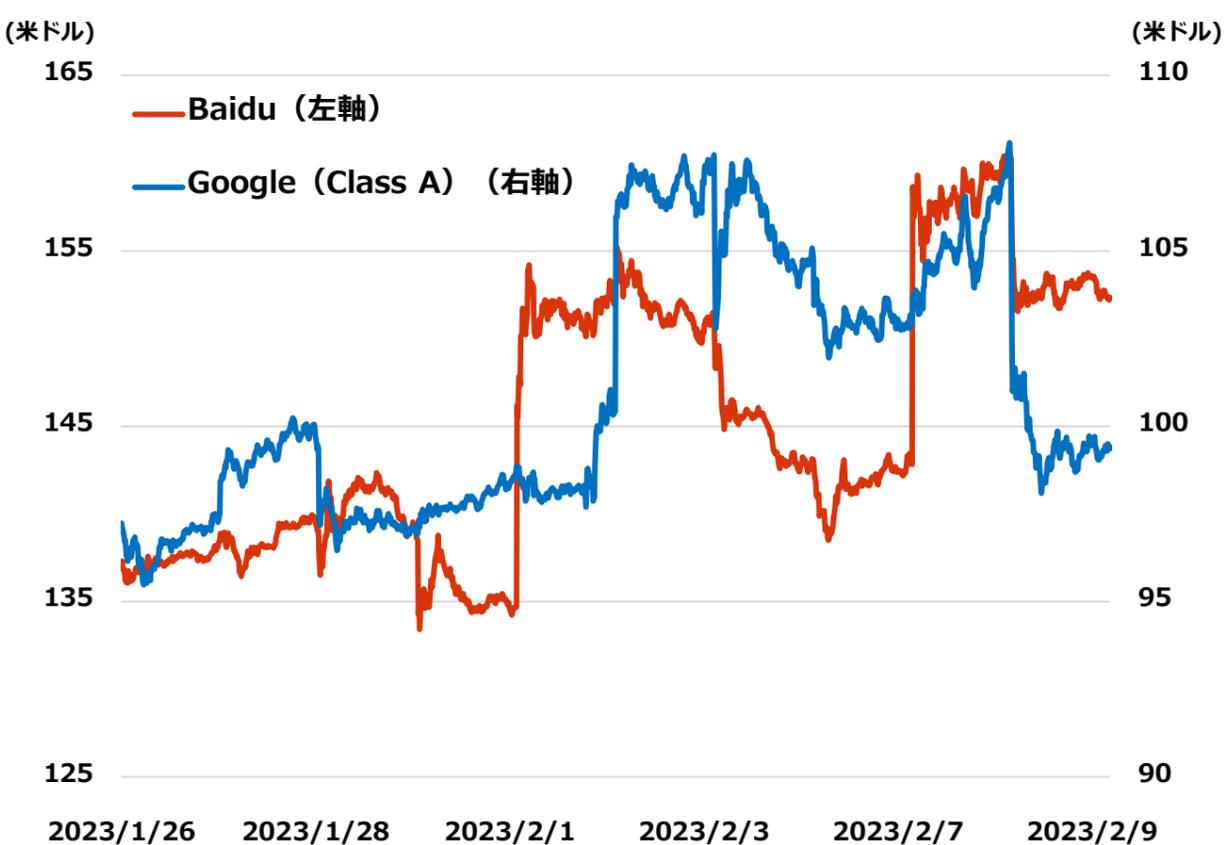
ATMX+ Special Letter (情報提供用資料)

いきなりですが皆さん。Chat GPT、もう利用されましたか？私はまだ使ったことが無いのですが、SNSやメディア報道を見て、使ってみたいな～って日に日に思っています。特に旅行好きの私としては、旅行計画をAIが自動生成してくれる機能を早く体験してみたいです。

そしてChat GPT関連銘柄（大手ハイテク企業など）の株価も、足下で乱高下しています。もちろん、株価乱高下げの理由はChat GPTだけではありませんが。

例えばATMX+指数構成企業であるBaiduも、Chat GPTに類似したサービスの投入計画が進んでいると報道され、1月末から2月初旬にかけて急上昇しました。一方Alphabet（Google親会社）は、先日のイベントで開発中の「Bard」紹介時に、デモ質問に対してBardが誤った回答を表示したと報道されて、その後株価が急落しました。

BaiduとGoogleの株価推移



※グラフ期間：2023/1/26～2023/2/9（日本時間）

※（出典）Bloombergより大和アセットマネジメントが作成

※Baiduの株価には米国上場しているBaiduのADRを使用していますが、ATMX+指数の投資ユニバースに、米国上場しているADRは含まれていません。グラフは参考のため記載しています。

新しいテクノロジーの誕生はもちろん素晴らしいことですが、テクノロジーの誕生やその将来性に期待して株式市場参加者が一喜一憂している様子は、DXやメタバースが流行りはじめたころに似ているな～なんて思ったりもします。

そこで、今回は今話題のChat GPTではなく、ちょっと前に話題になったメタバースについてご紹介します

メタバースSNS

またまた、いきなりですが皆さん。最近新しいSNSはじめましたか？

私が普段利用してるSNSはLINEやTwitter、FacebookやPinterstですが、Tiktokやclubhouse、BeReal.やNauNauなど、日々様々なSNS・サービスが誕生していて、時代の波に乗り遅れまいとキャッチアップするのに悪戦苦闘しています。また、ATMX+指数やその構成企業について調べて、みなさまに様々な情報をお伝えしている身としては、いつかはTencentが展開するWechatはもちろんのこと、約1年前に香港株式市場に上場した中国版Twitterと言われているWeiboも使ってみたいと思っています。

今回の資料ではそんな数あるSNS中でも、私が最近ハマっている『Bondee』という新しいメタバースSNSをご紹介します。

※本資料ではあくまでもBondeeというサービスの紹介を目的としたもので、その利用を推進するものではありません！詳しくは資料下部にある「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をご確認ください！

ちなみに『Bondeeって知ってる？』と同僚に聞いたところ「何それ？どっかの国債の俗称？」なんて言われてしまい、これが今回のタイトルの由来です笑 米国債はTreasury（トレジャリー）、ドイツ国債はBunds（ブンス）、英国債はGilt（ギルト）と呼ばれることもあり、それと同じようなものだと思ったそうです笑 実際にBondeeは英語で債務者という意味だそうです。何か関連がある気がしなくもないですね。

Bondeeとは？

Bondeeを知ったのはTwitterのタイムラインを眺めていた時です。そしてその数日後、たまたま友人と話しているときにBondeeの話題が出て、彼が登録しているのをきっかけに始めました。

Bondeeはネット上で「メタバースSNS」と言われ、自分のアバターを作って友達とオンラインで交流するというSNS体験が、サービスの中心となっています。

サービスの中で、ユーザーは主に以下のようなことをすることができます。

- 自身のアバターの設定とその着せ替え
- 自身のアバターが過ごす部屋の装飾と、友人アバターの部屋への訪問
- アバターを通じた友人とのチャット（LINE × アバター、という具合です）
- 今何をしているのかを、自身のアバターが体現するツイート機能（Twitter・InstagramやSnapchatのストーリー機能 × アバター、という具合です）
- 友人以外のアバターとランダムに遭遇したり、アイテムを獲得することができるフローティング機能（そこで知らない人とチャットができるわけではないです）

権利関係上、アプリのスクリーンショットなどを載せることが難しいので、よりアプリについて知りたい方はYoutubeやTwitterなどのSNSで検索してみてください！Twitterでは検索窓に「lang:ja bondee」と入力すると日本語（一部中国語が出てくることもあります）のツイートのみを表示することができます。純ジャパの私も、この検索方法を日々活用しています。

ちなみに、私のBondeeに対するファーストインプレッションは「サマーウォーズの世界じゃん！」です。『サマーウォーズ』ご存知ですか？2009年に公開された細田守監督のアニメーション映画で、今では夏の定番映画の1つになっている？（少なくとも私の中では！）作品です。

自分のアバターを設定してオンライン空間で友人と交流する様子は、まさに私がかつて熱中したサマーウォーズそのもの。10回以上この作品を見ている私としては、Bondeeの世界観にかなり感動しました。現在のところ、作品のようなオンラインとオフラインが相互に結びついた壮大な世界がBondeeに広がっているわけではありませんが、今後そんな風にサービスが進化してほしいなと、1ユーザーとしては思っています。

メタバースSNSをメタ認知で分析

次に、私がこのメタバースSNS・Bondeeにハマった理由、話題性やサマーウォーズの世界観以外の理由を、メタ認知的に分析してみました。以下は、いわゆるTwitterなどにいるアーリーアダプターの方々ハマっている理由の分析ではありませんのでご容赦ください。

■大きすぎない世界という心地良さ

これまでのSNSはたくさんの人とつながることができました。LINEの友達やFacebookの友達が1,000人を超えていたり、TwitterやInstagramのフォローやフォロワーが数千人という方も中にはいると思います。

これはこれで良いのですが、すごい外向的な性格をしているわけではない私にとって、仲の良い友人と小規模のグループで交流することの方が心地良いと感じました。何年も会っておらず、オンラインでコミュニケーションも取っていない人に、私の現状を発信したいとも思いませんし、何がきっかけで炎上・デジタルタトゥーにつながるかもわかりません。また、いくら仲が良くても久しく合っていないとLINEのテキストで会話を始めるのに少し躊躇することもあります。その躊躇が、アバターを介することで緩和されているように感じます。同じテキストを送る、という行為をしていることに変わりはないのですが。

「自分が気を許す・信頼できる人と、少人数で気軽にコミュニケーションする」という用途において、Bondeeは私はマッチしているSNSだなと感じています。

■簡単なクリエイティブ

テクノロジーの発展や時代の変化に伴ってクリエイティブ・クリエイティビティーというものが、一部の専門的・職業的な人から、私たちのような大衆にも広がってきています。大量にいるYoutuberの存在やnoteやココナラなどのC to Cビジネスの隆盛などはその証左でしょう。そのような環境にいと、世間的に評価されるレベルのものでなくても、何かをクリエイティブしてみたい気持ちになったりします。ただYoutubeで動画を作ったりnoteでブログを書いたりするのは、クリエイティブのハードルが高く感じますし手間もかかります。

一方でアバターの作成や部屋のデコレーションというクリエイティブはとても簡単です。設定の中からアイテムを選んで、自分に似せたアバターを作ることも、現実世界ではできないような格好をさせるのも自由です。私はアバターの上に猫を乗せています笑 もちろん、アバターの素材はサービスから提供されているものなので、理論上は自身のアバターと全く同じアバターを、別の人が作ることは可能です。しかし、そのようなことは稀であり、それ以上に簡単なクリエイティブを通じて"自分らしさ"を表現できることに、私はプラスを感じます。

■話題のメタバースを手軽に

ここ数年、メタバースという言葉が一種のバズワードとなっています。これだけ聞くようになると、私もメタバースを体験してみたいくなります。ただ、普通に生活していてメタバースを感じる・体験する機会はあまりありません。街でポップアップ的に開催されているメタバースイベントに参加することもできますが、大の大人かつ内向的な性格の私にとって、そのようなイベントに参加するのは少し気恥ずかしかったりします。

一方でBondeeは、手元にあるスマホで始められます。アカウント登録はもちろん必要ですが、追加での機器購入や、特定の場所に行く必要もありません。Meta Questのようにゴーグルを被るわけではないので、自分の見ている世界全てがデジタルに置き換わるレベルのメタバースを体験できるわけではありません。しかし私にはスマホ上での手軽なメタバースで、十分メタバースに満足しています。

「話題のものを使っている・体験していることで、時代の最先端に自分が居る感」に手軽浸ることができるのが、ハマっている別の理由かもしれません。

運営会社はシンガポールだが..

ちなみにBondeeを運営しているのはシンガポールにあるMetadreamという会社だそうですが、BondeeのUX/UIが、昨年中国で瞬間的にヒットしたZheliと酷似していることから、一部メディアやSNS上では、Metadreamの中身はZheliと同じ運営会社なのでは？という報道や憶測がなされています。実はこのZheliというアプリ、中国のアプリストアに登場してからわずか数日後に撤退しています。そして一部では、ユーザーの許可なく情報収集しているのでは？という疑惑もありました（運営会社は否定している用ですが）。

これらがBondeeというサービスと、どの程度関係があるのか現状ではわからないことが多いです。しかし情報発信する立場として、アプリの良い面だけを紹介するのではなく、一部では、そのような話があることも読者の皆さんには知っていただきたく、こちらについて記載しました。報道の詳細についてはTwitterや検索エンジンで、「Zheli Bondee」などで調べてみてください。

最後に

最後まで読んでいただきありがとうございました。今回は自分がいま”ハマっている”ものについて書いたもので、いつもよりも長くなってしまいました..。4月にはATMX+指数の銘柄選定が予定されていますので、そちらもお楽しみに！では、今回はこれで。

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 本PDFは印刷に不向きなデザインです。
- 本資料は上記の他社運営サービスを紹介するためのものであり、その利用を推進するものではありません。
- 上記の他社運営サービス利用判断については、ご自身で判断の上ご利用ください。
- 上記の他社運営サービスを利用したことによって生じた損害については、その理由を問わず、当社は一切の責任を負いかねます。

Daiwa Asset Management